

令和2年度第1回防府市廃棄物減量等推進審議会 議事概要	
開催日時	令和2年10月12日(月) 午前10時00分～午前11時50分
場 所	防府市クリーンセンター 可燃ごみ処理施設2階会議室
出席者	<p><委員> 土井委員(会長)、内田委員(副会長)、藤井(三)委員、阿部(幹)委員 松永委員、弘中委員、久保山委員、藤井(英)委員、大谷委員、梅田委員 磯野委員、高山委員、宮田委員、今村委員、西藤委員、三井委員 山本委員 ※欠席：國澤委員、阿部(新)委員</p> <p><行政> 池田市長 (事務局) 原田生活環境部長、竹末クリーンセンター所長 今川所次長補佐、曾我施設管理室長、前田庶務係長、伊藤調整係長 品川主任、佐々木主任</p>
傍聴者	0名
諮問事項	防府市ごみ処理基本計画の策定について

- 1 開会 <省略>
- 2 市長あいさつ <省略>
- 3 会長・副会長選出
会長として土井委員を、副会長として内田委員を選出
- 4 会長あいさつ <省略>
- 5 諮問「防府市ごみ処理基本計画の策定について」
市長が諮問書を読み上げ、会長に手渡す。
- 6 審議

(1) 議事 ごみ処理基本計画の実施状況について

(事務局) <資料1、4について説明>

(委員)

資料1のグラフの家庭ごみと事業者ごみの最終目標値はどういう根拠で出された数値ですか。

(事務局)

この値は平成28年度に計画の中間見直しを行った際に、その当時の国の計画や

県の計画、その他関連する計画との整合を図りながら定めた値です。平成28年度の間見直しにより、当初計画の目標値から引き上げるという変更をかけています。

(委員)

家庭ごみなら最終目標値が520gになっていますけど、どんどん下げていって、ある程度までいったら横ばいになるのは当たり前なのではないかと思うのですが。

(事務局)

現在の目標値を520gと厳しい値を設定していますので、今回計画を見直していく際には、この目標値をそのまま維持していくのか、現実に即したものにすることかというところで、それを含めて検討していかないといけないと思います。

(委員)

人口が減少する傾向にあって「(1) 1人1日当たり家庭系ごみ排出量」の指標の計算の仕方は排出量÷人口でやっているのか

(事務局)

家庭系ごみから資源ごみを除いた値を人口で割って1日当たりをグラムで表したものです。目標値を設定する際は人口減少の推移も考慮しています。

(委員)

令和10年あたりにはかなり人口が少なくなるという前提で考えているのか。

ごみの処理量も減ってくるという他の県の概算も出ていると思いますので、それが見える形で広報を流してもらえると関心を持ってもらえると思います。

(事務局)

市広報には年1回毎年のごみの量について掲載はしていますが、市民の皆さんに関わる計画ですので、分かり易く広報していく方法を検討していこうと思います。

(議長)

この家庭系ごみ排出量というのは可燃ごみと解釈していいですか？

(事務局)

可燃ごみに加えて、不燃ごみ、粗大ごみ等も含まれています。資源ごみは含まれていません。

(議長)

それもクリーンセンターへの持込分が計上してあるということですか？

(事務局)

持込分に加えて、自治会や団体の集団回収についての数量を計上しています。

(委員)

令和3年度で「1人1日当たり家庭系ごみ排出量 520g」というのは、決して無理な値ではないと思います。計画の見直しをされるに当たって、他市でもっと低い目標を達成しているところもあります。

計画の中で目標値を設定して、それを達成するためにはどのような施策をしないといけないかという観点からアプローチしたほうが下げられる可能性が高い。

ここまで下げればOKだ、ここまでだったら下げられるからこの目標値にする、そういう目標値の設定の仕方ではまずいと思います。

ぜひ野心的な目標を設定していただければありがたいと思います。

(事務局)

今回は、第1回目ということで、こういった形で実績をお示ししていますが、次回には、基本目標や数値目標の設定などを御審議いただくことになります。

どういう根拠で目標値を設定したのかとか、人口減少の具合はどうかとか、そのあたりのところも併せて説明することになると思います。

(2) 議事 ごみ処理基本計画の策定について

(事務局)

<資料2について説明> ※委員から特に意見なし

(3) 議事 ごみに関する市民アンケートについて

(事務局)

<資料3について説明>

(委員)

市民アンケートの1ページの「Iあなた自身のことについて、おたずねします」という質問ですが、答えられる本人がごみ出しをされているのかどうかを質問事項に入れておいたほうがいいのではないかと。

それと5ページ目の問8の「1 ごみ袋の価格が上がっても導入に賛成だ」という選択肢ですが、具体的な数字の目安が無いと、賛成・反対というのはなかなか回答しづらいのではないかと思います。

私は個人的には1枚13円というのはごみ袋代とは考えていなくて、「ごみ処理の有料化」と考えています。そう考えると、全国的にみて非常に安い金額で可燃ごみを処理していただいていると思います。そのあたりを踏まえて、いくらに設定するのか、価格について具体的にに入れておいたほうがいいんじゃないかなと考えます。

12ページの間28の「ごみの減量化、リサイクル」で、現在、市内に外国人の方が大変多く住まわっていて、結構間違い等も発生しているということがあり、外国人に対する指導や啓発という項目を1つ入れておくのも必要だと考えます。

それから9番目の「不法投棄や野外焼却などに対する取締を強化すること」とあるのですが、この前に「ポイ捨て・」というのをつけて欲しい。

ポイ捨てごみを拾うのはたいがい自治会が拾っているのですが、資源ではなく

て、明らかに可燃ごみであるとか、不燃ごみも出されている。そういうものを減らす方法を思っただけなのが、ごみの総量を減らすという方向性に繋がるのではないか。

それと10番目の「ごみ減量化のため、処理手数料を値上げすること」という項目、この処理手数料というのにはかっこづけでもいいですから、ごみ袋代を上げるとか入れて反応をみるというのが1つの方法じゃないか、前の項目で袋の材質を書いているからそれでいいんだということであればそれでいいと思います。

ごみの減量化って全国的に色んな取組がされていますけど、方向性として「見える化」、袋の中身が見えるようにする、市町村によっては家の前に出されてそれを回収していますが、防府の場合はそこまでやられると大変だと思います。

もう一つは「有料化」、つまり焼却に対するコストをごみを出される方に負担していただく、防府の場合は袋1枚13円ぐらいなんですけど、人口11万人位の市町村で40円から50円位の負担をいただいている。東京の多摩地域は袋1枚80円位、手数料として徴収されています。

できれば両方の方向性をアンケートに示して、それに対する回答をしていただけるような形にしていきたいと思います。

(事務局)

御本人さん自身のごみを出しているかという項目については、アンケートの6ページの問12の5番「自分でごみ出しをしていない」という項目があります。

ごみ袋の導入の件ですが、価格についても載せたほうがいいというお話ですが、固定した数字を挙げるのがなかなか難しいところではあります。聞き方はこちらでもう一回検討させてもらいます。

問28、外国人のごみ出しの方法、啓発については追加する方向で検討します。

9番の「ポイ捨て・」という単語についても追加する方向で対応します。

最後に、ごみの「見える化」と「有料化」の視点ということですが、処理手数料についてのお話があったと思います。先程のごみ袋の話と絡んできますので、聞き方は検討させてもらおうと思います。

(議長)

5ページでいいますと、価格が上がっても導入賛成ということで、金額はなかなか出せないのかも知れませんが、この問8の1に○をつけた人ということで、問8-2を設けて、いくらぐらいだったら賛成です、あるいは上限いくらぐらいが望ましいかという形で、どの程度のことを消費者は我慢できるのかということを探るのも一つの手かだと思います。

2ページですけれども「(ア) マイバックを持参し、レジ袋はもらわない」と書いてありますが、「もらう」と言うと、間違っても困るので、「買わない」と言ったほうが、今の時代には合う感じがします。

(委員)

アンケートの対象者が2,000人と書いてらっしゃいましたが、前回どの程度

の回収率があるのでしょうか。それと無作為とありますが、年齢差とか地域差とか大体バランスがとれているのでしょうか。

(事務局)

前回のアンケートは回答率が60.7%、2000通送って1,200通位回答がありました。牟礼であったり、松崎であったり、それぞれの地域から万遍なく回答が貰えるように抽出しており、集計も地域ごとで行っております。

(委員)

袋が1枚13円とおっしゃられてましたけれども、木を入れたりすると、すぐ破れたり漏れたりするんです。

例えば魚なんかで穴があいてて漏れがあったりとか、先程お値段のこと言われてましたけど、20円だったら厚くなるのかとか、他の市はどのようなものなのかは分からないですが、防府のは弱いような感じがして。

値段だけの問題ではないと思いますので、質の問題も書いていただいた方がいい。

(議長)

カラスが来たり、あるいはちょっと尖った木の端くれが入ると、すぐ破れる。バイオマスプラスチックになったら丈夫になるんですか。

(事務局)

県内で導入している市や業者等から聞いている情報では、値段は一般的には高くなり、強度は今使っている製品よりは一般的には弱くなると聞いています。

指定ごみ袋を導入してかなり経っているのですが、厚みや製造場所等検討を重ねながら、以前は破れたとか、不良品の報告もかなりいただきましたが、年を追うごと、改善されています。今いただいた意見については今後の製作に生かしていこうと思います。

(議長)

バイオマスプラスチックになって、強度が増すということはないということですが、焼却する時にできるだけプラスチックの量が少ないほうが環境にも優しいということで、利用する人の便宜を図って厚くするわけにもいかないという、そのあたりの攻めぎあいだろうと思います。

(委員)

バイオプラスチックという言葉があって、バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックの2種類があって、総称はバイオプラスチックという言葉で表現されるのですが、問8ではバイオマスプラスチックと書かれています。

バイオマスプラスチックと限定をしてしまうと、プラスチック製容器包装のごみ袋については、そうではないほうが良いというケースも考えられます。

選択肢を広くするという意味で、ここはバイオマスプラスチックではなくて、バ

イオプラスチックという表記にしておいたほうが無難だと思います。

(事務局)

「バイオマスプラスチック」は原料に着目したのですが、「生分解性プラスチック」は分解性に係る機能に着目しているものということで、国も焼却が求められる場面等へのバイオプラスチックの利用促進を謳っていますので、広い意味で捉えることができる「バイオプラスチック」という言葉に変更しようと思います。

(委員)

生ごみは、定期的な集積場所の回収が何日の何曜日何曜日というふうにございますが、水切りが随分大切だと思います。

雨の日に出された袋の中に雨水が入り、重さが違ってくる。しっかり袋を閉めて雨水が入らないようにするだけでも全然違うと思いました。

それと、燃えるごみの中に庭の草木なんかを袋に詰めて出してますけれど、清掃をする時に土、泥ですね、袋に入れるその土の重さがずいぶんある、考えていく必要があると思いました。

それと、問2の「使い捨て商品はできるだけ購入しない」という選択肢がありますが、数多く何回も使う代物ならいいですが、1回使って、また使うようなことはないようなものもあったりすると思うんですね。そのあたりを考えた聞き方をしてみたらいいのではないかと思います。

それと、問4－8の衣類の関係、古着を出す時に燃えるごみでどんどん出している。年に何回か、衣類を回収しますよというような連絡等がありますが、回数が少ないから燃えるごみで出しているので、プラスチックなんかの回収とは別途の袋で衣類関係だけでも回収するようなやり方はどうだろうかと思います。

それと、コンポストは使ってますかというような質問がございますが、コンポストの活動をもっと普及させる方策を考えてみたらどうかなど。

一つの例で、地区に2、3箇所でもコンポストを置く場所を決めて、定期的に回収するというような方策をしたらいいのではないかと色々考えてみました。

(事務局)

要望を含めてお話をいただいたと思いますけれども、このアンケートの中に反映できるようなことがあれば検討させていただきたいと思います。

(議長)

コンポストの話がでましたが、例えば2ページの間2の中にコンポストを利用しているとかいう項目が1つあってもいいかなあという気もします。「ごみを減らすこと」や「リサイクル」の行動をどのくらい行っていますかというところに。

(委員)

アンケートの1ページ、住まいの地域を聞くのはどんな意図があるのですか。データを解析するのに、時間がかかって邪魔になるかと思ひまして。

(事務局)

地域によって自主搬入をやっている地域であったり、やっていない地域であったり、地域性があるため、地域ごとの傾向も把握したいという趣旨で聞いています。前回のアンケートと同一性を保ちながら分析の素材として活用したいと思っています。

(委員)

ごみの減量化について、江戸時代のごみというのはほとんど無かったと聞いてます。その中で何か取り入れられるような案件があったら取り上げてもらったらいい。そこをひもといていったら少しはごみも減るのではないかと思います。

(委員)

市民アンケートの1ページ目のところですが、男性、女性と書いてあるんですけど、性別というのはあまり関係ないのではないかって思います。

それともう一つ、少し逸れるかもしれないんですが、4ページのフードドライブのところなんですけど、よく分からないのでお尋ねしたいんです。必要とする人がいるのに、そういう人のところにはものが来ないとか、詳しいことが全然分からないので、教えていただきたい。

(委員)

フードバンクで集めている食品は、フードドライブだけではなくて、防府市内だとアルクさんの店頭であるとか、ユアーズバリューさんの店頭であるとかフードバンクポストを置かせていただいて、御家庭で食べない食品を集めております。企業さんからも、もちろんたくさん寄付をいただいております。

それを一旦防府市内ですと、ルルサスの2階にあります市民活動支援センターのフードバンク山口の防府ステーションに集積し、食品のチェックをしたり、記録をしたり、そういった作業をした食品を福祉施設であったり、こども食堂さんであったり、民生委員さん、ソーシャルワーカーの方、それから障がい者の施設、DV被害者の方とか色々なところに支援させていただいております。

今フードバンク山口では個人の方への支援は緊急支援のみとさせていただいています。というのは、食品自体の量が十分に無いケースもありますので、いつまで支援ができるかということもありますし、支援することによって、その方の自立を妨げてしまうということもあります。その方の状況をしっかり把握しないとイケないですし、細かいところまでフォローができないということで、例えば民生委員さんであったりとか、高齢者の方であれば介護施設であるとかを通して食品をお渡しするというようにしています。

もしそういう方が近くにおられたら、ぜひ相談に行っていただきたいと思います。フードバンク山口のほうでも窓口をつくっておりますし、市の生活相談窓口であったりとか、あるいは施設等を利用されているのであればその施設に相談いただければと思います。

(委員)

市民アンケートの2ページのところで、ごみの排出とは直接関係ないかもしれないのですが、選択肢の中に、環境ラベルのついたものを積極的に購入しているかどうかみたいな設問が入れられないかと思っています。

今日配付されている資料4の防府市ごみ処理基本計画の中の2ページに、ごみ処理基本計画の位置付けの図があるのですが、ここに法体系が書いてあります。

環境基本法から1番下に各種リサイクル法が書いてあるのですが、これと並列をしてグリーン購入法という法律がございます。国の機関は当然グリーン購入が義務付けられていますけど、地方自治体については努力義務ということになってます。

リサイクルされたりとか、資源を有効利用する観点で、作る側がやっぱりリサイクル製品を作っても、使う側がきちんと消費をしてくれなかったら、リサイクルが進まないということがあります。

グリーン購入という考え方であったり、あるいは「エシカル購入」というもう少し広く捉えた消費者教育もされていると思うのですが、そういった中でグリーン購入の意識というのを市民の方に持っていただくという意味も含めてそういった環境ラベル、エコマークがついた商品を積極的に購入しているのかどうか、そういった項目を入れられないか御提案をさせていただきます。

(事務局)

問2の中に環境ラベルの項目を追加してはどうかという御提案ですが、アンケートに追加する方向で検討しようと思います。

それと、性別の質問の件ですが、基本的事項になってくるため、このままでいきたいというのがあります。

(議長)

市も色々なところで他のアンケートとかですね、やってらっしゃるでしょうから、それとのバランスもありましょうから、その辺も勘案しながら決めてください。

4ページですけど、スーパーや資源回収業者がボックスなどで回収しているものを利用しているかどうかということで、問7で利用している人にその理由をという関連で聞いてみると、ポイントが貰えるからやっているという人が多いんですよ。だからそういう特典があるからとかいうのを1候補入れたらどうかと。

それともう1つはリサイクルセンター、この施設の1階にある不要な物を再利用して、市民の人に譲るというのがありますよね。防府では品目が少ないのですが、山口のリサイクルセンターなんかは着物から、洋服から、陶器から、茶碗とかそういうのを含めてすごく出ているんですよ。

大学生の卒業時分になったら、ベッドとかですね、タンスとか色々な物が出ます。すごく安いんです。卒業したら東京まで持っていくのが面倒臭いからここで売って、向こうで新しいのを買った方がお金がかからないからというのですね。

防府のリサイクルセンターというのか、確か山口はリサイクルセンターだったと思いますが、そういうところを利用したかとか、そこに出したことがあるかとか、どういう品目が出たらいいかとかですね、それもごみを減らす一つの手段になると

思います。そういう項目が1つ入ってくるといいなという感じがします。

それでは時間もだいぶ経ってまいりましたので、事務局のほうで、よく検討していただいて、できるだけ発言者の皆さんの意に沿うような形で充実したアンケートができるようにしていただきたいと思います。

その他ごみの減量化、あるいは適正分別ということで、御意見があればお伺いをしてみたいと思います。

(委員)

周りの方から出された疑問ですが、3点あるんです。

1つは畳を捨てる時に業者は1度に5枚、一般の方達が捨てる時は10枚まで認められている。業者は有料で捨てているのに、これはどういうことかということ。

2点目ですけど、仏壇の処理ですね、下関や宇部はクリーンセンターで回収されるというのを聞いたことがあります。防府では仏壇を処理する時は仏具屋さんとか、お寺さんなんかでやってもらいますよね。当然かなりのお金がかかります。仏壇の処理をしてもらえるのかどうか。

もう1つはごみを出しにくい高齢者・独居の方とか、そういう方達が10世帯集まったら取りに来てくれるというのを聞いたことがありますが、それはどういうかたちなのか。以上の3点です。

(事務局)

まず畳の件ですが、業者は5枚というのは、ルールとして家電製品なら家電製品、不燃ごみなら不燃ごみということで合わせて5点ということになっております。畳も可燃性粗大ごみなので5枚ということで合わせております。どこの業者さんも同じ扱いをしております。それで、一般の方は無料で10枚までということになっておりますけど、10枚というのは破碎処理機の問題であって、これがあまり多すぎると負荷がかかりすぎて、処理に手間がかかって、しかも停まったりしてしまうということを考えて、10枚と決めさせてもらっております。

次に仏具なのですが、社会通念上廃棄物として処理することに支障があるものと判断してまして、受入れはお断りしています。

3つ目のごみステーションは10世帯集まらないと新規で作れないというご質問ですが、可燃ごみのステーションが約4000か所市内にあるのですが、毎年、箇所が数十か所ずつ増えている状況です。そういう状況の中、昨年ごみステーションの設置に関する要綱を作りまして、その中で、新規でごみステーションを作るには、家が10戸以上そこに出さないと作れないと規定しています。

もしごみステーションの関連で何か懸案事項ありましたら、クリーンセンターに相談していただいたらと思います。

また、「高齢者ふれあい戸別収集」というのがありまして、要介護の区分などの要件はありますが、自分で集積場所までごみが出せない方についてクリーンセンターの職員がご自宅に直接伺って収集するという制度です。

(事務局)

本日は貴重な御意見ありがとうございました。次回の審議会ですが、来年2月を予定しております。その中で今回御審議いただいた市民アンケートの報告や、次期計画の基本目標等を御審議いただきたいと考えております。

今日いただいたアンケートに関する御意見についてはこちらで加筆・修正等をして確認いただくことにします。ありがとうございました。

7 閉会